

国内初「医療用弾性ストッキング」 医師とネットワークをつくりながら患者の QOL に貢献

事業のポイント

一般向けの靴下やストッキング類の製造販売で培ったノウハウを生かし、「国内初の医療用弾性ストッキング」を開発するなど、業界のパイオニアとして付加価値の高い医療分野にいち早く参入。OEM（受託製造）のみならず、リンパ浮腫用患者の治療を目的としたストッキングを自社製品として開発・製造販売するほか、医療分野での経験を生かして防災や介護等の異分野への展開も図っている。

◆国内初「医療用弾性ストッキング」

立ちっぱなしや座りっぱなしで足の静脈の血流が滞ることで、足がむくむ下肢静脈瘤や血の塊ができる血栓症を発症することがあります。また、乳がんや子宮がん、前立腺がんといった内分泌系のがん手術後の後遺症としても、リンパ液の流れが滞ることで、手足にむくみができるリンパ浮腫を発症することがあります。

これらの症状の治療方法の一つとして、一般向けの靴下やストッキングよりも着圧が高く、上部に向かって着圧が下がる段階着圧機能を持つ「医療用弾性ストッキング」の使用があります。特に、リンパ浮腫向けは、症状が患者ごとに異なり術後に体型が変化していくため、オーダーメイドで短納期であることが求められますが、当社は、一般向けの靴下やストッキング類の製造販売で培ったノウハウをもとに日本で初めて「医療用弾性ストッキング」を開発しました。現在、下肢静脈瘤や血栓症の予防に使う「医療用弾性ストッキング」の OEM を手掛けるほか、リンパ浮腫向けについては、国内外の医療機関と連携しながら、自社製品（「Medical Support」）として開発し、オーダーメイド生産による短納期の販売を実現しています。

◆医療機器分野への参入による「新たな体制整備」と「医師とのネットワーク構築」

当社は、もともと一般向けの靴下やストッキング類を製造販売していました。また、早くからパニティストッキングを開発・製造販売するなど、常に新しい商品開発にも力を入れていました。そのような中、昭和 50 年代にドイツ・メルツ社製の編み機を導入したところ、その商品見本で「医療用弾性ストッキング」を知りました。得意先から開発の申込みもあり、国内初の「医療用弾性ストッキング」の開発を進め、上市に至りました。

また、ドイツでリンパ浮腫を研究されていた、徳島大学医学部教授（当時）との出会いによって、リンパ浮腫向けの「医療用弾性ストッキング」を開発することになりました。ニッチな国内市場ですが、当社の技術をリンパ浮腫の「治療」に役立てていきたいとの思いもあり、熱意ある医師と連携して自社製品を開発することになりました。

医療機器分野への参入は、我々の中に定着していた大量生産型からオーダーメイド型の短納期体制を実現するために、技術や設備のほか、デリバリーなど、営業方法まで変える必要がありました。平成 12 年に販売会社（株）メディックスを設立したほか、平成 17 年に医療機器製造業許可を取得、平成 19 年には医療機器製造販売業許可も取得しました。

リンパ浮腫向けの「医療用弾性ストッキング」は、医師が患者の治療のために必要であると判断して、初めて供給されるものです。そのため、医師との出会いが販路を確保していくうえで重要であると考え、学会を中心に国内外のリンパ浮腫関係の医師とネットワークを構築しています。こちらから積極的に商品を売り込むよりも、商品の評判を聞いて何がしかのアプローチを受けることをきっかけに、そこから口コミで広がっていくことも特徴です。患者の方も学会から紹介され、来社されることもあります。今では、患者の方から医師を紹介いただくこともあるほど、信頼関係が生まれています。



佐藤 允男 東光株式会社 代表取締役社長

<東光株式会社連絡先>

【本 社】〒771-1153 徳島県徳島市応神町吉成字西吉成 43

TEL: 088-641-1122/FAX: 088-641-3737

<http://toko-inc.co.jp/>

◆商品のバリエーション、医療用弾性ストッキング対応の環境等

- 「医療用弾性ストッキング」のほか、非医療機器である一般向け商品として、足がむくみやすい方や長時間旅行をする方にも対応する弾性ストッキングも手掛けています。また、弾性ストッキングの装着用補助具、ガードル、圧迫補助具のシートやパッドなど、リンパ浮腫治療の各種補助製品も自社製品として手掛けています。
- ドイツ・メルツ社製の編み機を複数台導入するだけでなく、必要な繊維（弾性糸）の調達も含めて製造環境を整えています。また、医療機器製造販売業許可を取得するなど製造環境を整えるだけでなく、知識や経験を積んでいくことが重要だと考えています。



リンパ浮腫向け医療用弾性ストッキング「Medical Support」(一例)
左：ハイソックス 中：パンティストッキング 右：アームスリーブ



非医療機器の商品(一例)
左：ハイソックス 右：弾性ストッキング装着用の補助具

◆その他取組の特長、今後の展開など

- 平成 20 年の診療報酬改定において「リンパ浮腫指導管理料」「弾性着衣療養費支給」が新設され、平成 28 年に「リンパ浮腫複合的治療料」が保険適用となりましたが、がん手術後の後遺症が対象で、現状、先天性のものには適用されていません。リンパ浮腫向けの「医療用弾性ストッキング」の国内市場は大きいわけではなく、大部分が輸入品です。今後は医療機器開発で得た経験を生かし、痩身用の商品（一般向けの弾性ストッキング）のほか、防災や介護など、異分野への展開を目指しています。
- リンパ浮腫向けの「医療用弾性ストッキング」は世界水準にしたいと考えています。ドイツをはじめ欧州で販売するには品質規格「RAL (ラル)」認定取得の必要があり、国内の医師からも RAL を求められることがあります。今後は、世界水準で評価されるよう、RAL 認定取得も検討しています（現状も一部対応）。また、医療現場の共通の課題として、装着用補助具が無くても履きやすくなるよう、素材面からの改良も進めています。
- ドイツではメーカー自身が患者のことを考えた商品づくりをしています。品質基準の観点だけでなく、川上から川下まで生産プロセスにも着目した価格設定を行い、安価な商品流入で市場が荒れることもありません。また、OEM の場合でも、相手先ブランドに対してメーカー側から提案することもあります。こういった、患者のことを考えた商品づくりの精神は大切であり、社会的な価値を求めることが企業経営の情熱にもつながっていくものだと考えています。
- 現在、当社は売上構成で約 70%が医療機器、約 30%が非医療機器、この中で自社製品は約 10%です（株メディックス分含む）。今後は OEM ではなく、開発企画部門を強化しながら、提案型の企業として自社が優位性を持ちながらものづくりが行えるように、また、自社製品の比率を上げて柱にしていきたいと考えています。具体的には、自社製品について異分野での裾野を広げるとともに、「医療用弾性ストッキング」の海外市場に向けた更なる研究開発を行うための体制や循環作りを行っていく予定です。



防災用着圧ソックス(異分野展開一例)